

# 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

令和4年度  
(2022)

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

# 序

埋蔵文化財は、新潟県はもとよりわが国の歴史や文化を正しく理解するために欠くことができないものであり、かつ将来の文化の発展向上のために適切に保存・活用していくべき貴重な文化遺産です。

当事業団は、平成4（1992）年に新潟県が出資して設立したもので、組織の中心的な事業である発掘調査及び整理・報告書刊行のほか、埋蔵文化財保護に関する普及啓発・資料管理などに努めています。平成26年度には公益財団法人として再スタートを切り、現在に至っています。本書は、令和4（2022）年度に新潟県の調整を経て実施した事業の概要や成果などをまとめたものです。

発掘調査は国土交通省事業関連の9遺跡、28,414㎡を実施しました。このうち、縄文時代後期の大規模集落である村上市上野遺跡（国道7号朝日温海道路）では、大型掘立柱建物が検出されたほか、焼人骨集積土坑から出土した人骨の分析を進めました。柏崎市丘江遺跡（国道8号柏崎バイパス）では平安時代末から鎌倉時代の木製板碑が、南魚沼市六日町藤塚遺跡（国道17号六日町バイパス・国道253号八箇峠道路）からは魚沼地方で初めてとなる古墳時代の子持勾玉が出土しました。上越市下割遺跡（国道253号上越三和道路）では、平安時代の祭祀跡から手づくね土器や白玉が出土しました。

整理作業は、上野遺跡（国道7号朝日温海道路）、阿賀野市山口遺跡ほか（国道49号阿賀野バイパス）、長岡市ササラ西遺跡（川口待避所）、南魚沼市金屋遺跡（国道253号八箇峠道路）の整理を行いました。また、村上市大川城跡、上越市堂古遺跡の発掘調査報告書を刊行しました。これらの情報は、年3回発行の広報紙『埋文にいがた』やホームページで随時公表したほか、4遺跡で現地説明会等を開催し、延べ732人の参加者がありました。

普及啓発事業関係では、企画展として「地味にすごい！下越の縄文時代」、「謎の越後国府に迫る」、「発掘！新潟の遺跡2022」を開催したほか、新潟県埋蔵文化財センター講演会などを実施し、多くの方々に参加していただきました。また、火起こしや勾玉作りなどの体験を取り入れた校外学習支援や少年少女考古学教室では、児童・生徒に対して埋蔵文化財の価値や保存の大切さ、古の人々の生活や知恵を学ぶ楽しさを知る機会を提供できたものと考えています。

最後に、日ごろ当事業団の事業に御理解・御協力をいただいている関係各位に対し、厚くお礼を申し上げますとともに、今後のさらなる事業の推進に向け、一層の御支援をお願いいたします。

令和5年8月

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

理事長 野上 文敏

# 目 次

## I (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

1	目的及び事業	1
2	設立年月日	1
3	基本財産	1
4	組 織	1
5	役員及び職員	2
6	理事会・評議員会	2
7	予算及び決算	3
8	主な行事	4

## II 発掘調査・整理事業

1	本発掘調査実績一覧	6
2	本発掘調査位置図	6
3	本発掘調査	6
	上野遺跡 (VI) (国道7号朝日温海道路)	7
	石船戸東遺跡 (IV) (国道49号阿賀野バイパス)	9
	蕪木遺跡 (III) (国道49号阿賀野バイパス)	10
	山口野中遺跡 (VI) (国道49号阿賀野バイパス)	10
	丘江遺跡 (XI) (国道8号柏崎バイパス)	11
	六日町藤塚遺跡 (V) (国道17号六日町バイパス)	13
	六日町藤塚遺跡 (VI) (国道253号八箇峠道路)	13
	金屋遺跡 (VI) (国道253号八箇峠道路)	15
	下割遺跡 (X) (国道253号上越三和道路)	16
4	整理・報告作業	18
5	令和4年度刊行報告書	18
6	保存処理	19

## III 普及啓発事業

1	現地説明会	21
2	企画展・常設展	21
3	発掘!新潟の遺跡2022・遺跡発掘調査報告会・講演会等	23
4	広 報	23
5	校外学習・体験イベント等	24
6	入館者数	27
7	出土品の管理	27
8	図 書	27

## IV 研修・各種委員会

1	職員研修	28
2	安全衛生委員会	30

## V 市町村及び関係機関等への協力

		31
--	--	----

# I (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

## 1 目的及び事業

県内における埋蔵文化財の調査及び研究、保護思想の普及、啓発などを行い、本県文化の向上に寄与することを目的として次の事業を行う。

- ア 埋蔵文化財の調査及び研究
- イ 埋蔵文化財保護思想の普及
- ウ 埋蔵文化財調査技術の指導及び研修
- エ 出土遺物の保存処理
- オ 埋蔵文化財に関する資料の収集、保存及び刊行

## 2 設立年月日

平成4年3月31日

## 3 基本財産

3,000万円(県の出捐)

## 4 組 織

(令和4年4月1日現在)

評議員会

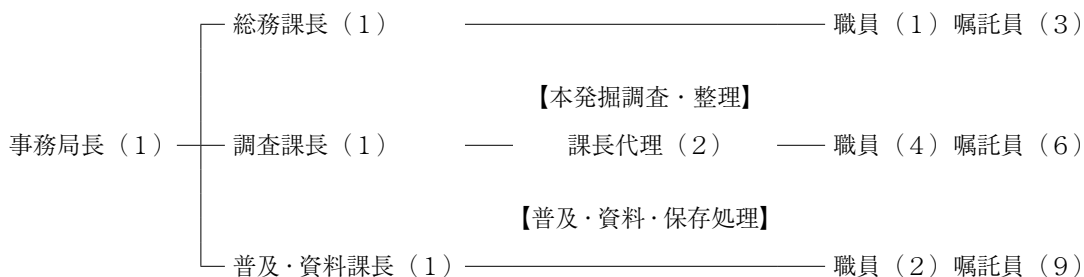
評議員(4)

理事会

理事長(1) ————— 専務理事(1) ————— 理事(2)

監事(2)

事務局(職員総数31)



## 5 役員及び職員

(令和4年4月1日現在)

### 役員

職名	氏名	備考	職名	氏名	備考
理事長	妹尾 浩志	県観光文化スポーツ部長	評議員	小林 昌二	新潟大学名誉教授
専務理事	松田 英世	事業団事務局長	〃	寺崎 裕助	(前) 県考古学会会長
理事	笠原 英一	(元) (株)BSN ウェーブ顧問	〃	橋本 博文	新潟大学名誉教授
〃	遠藤 和典	新潟市文化スポーツ部歴史文化課長	〃	青木 長務	県土木部道路建設課長
監事	豊田 智	税理士			
〃	山田 修	(元) 県監査委員			

### 職員

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
事務局長	松田 英世	文化財調査員	中島 愛理	普及・資料課長	佐藤 友子
総務課長	五十嵐大介	【整理】		【普及・資料・保存】	
班長	伊藤 雅美	課長代理	土橋由理子	班長	田海 義正
嘱託員	3名	専門調査員	春日 真実	〃	上田 悟司
		嘱託員	6名	嘱託員	9名
調査課長	荒川 隆史				
【本発掘調査】					
課長代理	石川 智紀				
専門調査員	飯坂 盛泰				
〃	加藤 学				

## 6 理事会・評議員会

会議名	開催日	付議事項等
臨時理事会 (決議の省略)	令和4年4月1日	1 理事長・専務理事の選定について
第1回定例理事会	令和4年5月30日	1 令和3年度事業報告 2 令和3年度決算 3 任期満了に伴う次期役員候補の推薦について 4 定時評議員会の開催 5 任期満了に伴う次期評議員候補の推薦について 6 任期満了に伴う次期評議員選定委員の選定について
定時評議員会	令和4年6月17日	1 令和3年度事業報告 2 令和3年度決算 3 理事の任期満了に伴う改選について 4 監事の任期満了に伴う改選について
臨時理事会 (決議の省略)	令和4年6月17日	1 理事長・専務理事の選定について
第2回定例理事会	令和5年3月23日	1 令和4年度事業計画の一部変更 2 令和4年度収支補正予算 3 令和5年度事業計画 4 令和5年度収支予算 5 事業団事業実施規程の一部改正 6 役員の辞任に伴う補欠選任候補者の推薦 7 臨時評議員会の招集の決定
臨時評議員会 (決議の省略)	令和5年3月29日	1 役員の選任

## 7 予算及び決算

### 令和4年度収支決算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

#### 収入の部

科 目		当初予算額	補正後予算額	決 算 額	増 減	備考
大	中		a	b	(b-a)	
基本財産運用収入	基本財産利息収入	1,000	1,000	599	-401	
事業収入	発掘調査受託収入	1,466,190,000	1,375,741,000	1,375,741,193	193	
	センター管理運営受託収入	20,729,000	20,752,000	20,752,000	0	
	(センター管理業務受託収入)	8,739,000	10,902,000	10,999,605	97,605	
	(保存処理業務受託収入)	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	(普及啓発業務受託収入)	7,872,000	5,904,000	5,904,000	0	
	(センター維持修繕業務収入)	918,000	746,000	648,395	-97,605	
	自主事業収入	100,000	0	0	0	
補助金収入	国庫補助金収入	3,289,000	3,289,000	3,289,000	0	
	地方公共団体補助金収入	800,000	800,000	800,000	0	
雑収入	雑収入	30,000	16,000	15,680	-320	
当期収入合計 A		1,491,139,000	1,400,599,000	1,400,598,472	-528	
前期繰越収支差額		331,000	327,000	326,590	-410	
収入合計 B		1,491,470,000	1,400,926,000	1,400,925,062	-938	

#### 支出の部

科 目		当初予算額	補正後予算額	決 算 額	増 減	備考
大	中		a	b	(b-a)	
受託事業費支出	発掘調査費支出	1,377,503,000	1,287,394,000	1,287,388,994	-5,006	
	(国土交通省発掘調査費)	1,377,503,000	1,287,394,000	1,287,388,994	-5,006	
	センター管理業務費支出	8,739,000	10,902,000	10,999,605	97,605	
	保存処理業務費支出	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	普及啓発業務費支出	7,872,000	5,904,000	5,904,000	0	
	センター維持修繕業務費支出	918,000	746,000	648,395	-97,605	
	自主事業支出	100,000	0	0	0	
補助事業費支出	補助事業費支出	6,578,000	6,578,000	6,578,000	0	
管理費支出	総務費支出	201,000	180,000	175,010	-4,990	
	管理費支出	85,997,000	85,678,000	85,688,189	10,189	
当期支出合計 C		1,491,108,000	1,400,582,000	1,400,582,193	193	
当期収支差額 (A - C)		31,000	17,000	16,279	-721	
次期繰越収支差額 (B - C)		362,000	344,000	342,869	-1,131	

## 8 主な行事

### 【令和4年】

- 4月 1日 辞令交付
- 1日 臨時理事会（書面決議）
- 4日 初任者研修
- 6日 発掘業務委託業者説明会
- 22日 企画展1「地味にすごい！下越の縄文時代」開会、9月25日まで
- 24日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第1回
- 27日 新潟県埋蔵文化財センター見学・体験会 第1回
- 5月 6日 柏崎市丘江遺跡出土木製塔婆検討会
- 22日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第2回
- 23日 会計（監事）監査（令和3年度）
- 30日 令和4年度第1回定例理事会
- 6月 1日 職員健康診断（各自受診）、9月末日まで
- 9日 安全衛生委員会巡視①（南魚沼市六日町藤塚遺跡・金屋遺跡）
- 12日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第3回
- 14日 安全衛生委員会巡視②（阿賀野市石船戸東遺跡・蕪木遺跡、村上市上野遺跡）
- 16日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会
- 17日 令和4年度第1回定例評議員会
- 17日 臨時理事会（書面決議）
- 7月 3日 少年少女考古学教室 第1回
- 11日 安全衛生委員会巡視③（柏崎市丘江遺跡、上越市下割遺跡）
- 10日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第4回
- 24日 柏崎市丘江遺跡出土木製塔婆一般公開
- 28日 救急法講習
- 8月 4日 少年少女考古学教室 第2回
- 5日 文化課連絡調整会議  
『埋文にいがた』118号 発行
- 21日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第5回
- 26日 ハラスメント研修会
- 29日 博物館実習、9月6日まで
- 31日 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第292集 堂古遺跡Ⅱ 第3次調査』刊行  
『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 令和3年度』発行
- 9月 3日 柏崎市丘江遺跡現地説明会
- 7日 新潟県埋蔵文化財センター見学・体験会 第2回
- 10日 村上市上野遺跡現地説明会
- 11日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第6回
- 30日 消防訓練

- 10月 7日 企画展2「謎の越後国府に迫る」開会、12月18日まで
- 9日 少年少女考古学教室 第3回
- 10日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第7回
- 14日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会ブロック会議
- 22日 上越市下割遺跡現地説明会
- 28日 交通安全講習会
- 30日 村上市上野遺跡焼人骨集積土坑公開（新潟医療福祉大学）
- 11月 3日 南魚沼市六日町藤塚遺跡現地説明会
- 16日 新潟県埋蔵文化財センター見学・体験会 第3回
- 20日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第8回
- 25日 『埋文にいがた』119号 発行
- 12月 1日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会
- 4日 少年少女考古学教室 第4回
- 5日 少年少女考古学教室展示会開会、1月9日まで
- 9日 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第293集 大川城跡』刊行
- 11日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第9回
- 16日 市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修（新潟県埋蔵文化財センター）
- 21日 水曜日の職員講座 第1回（大雪のため中止）

**【令和5年】**

- 1月 13日 発掘！新潟の遺跡2022開会、3月21日まで
- 25日 水曜日の職員講座 第2回（大雪のため中止）
- 2月 8日 水曜日の職員講座 第3回
- 21・22日 市町村等文化財専門職員実務研修（新潟県庁）
- 22日 水曜日の職員講座 第4回
- 3月 5日 第26回遺跡発掘調査報告会
- 8日 文化課連絡調整会議
- 15日 水曜日の職員講座 第5回
- 23日 令和4年度第2回定例理事会
- 24日 『埋文にいがた』120号 発行
- 29日 臨時評議員会（書面決議）

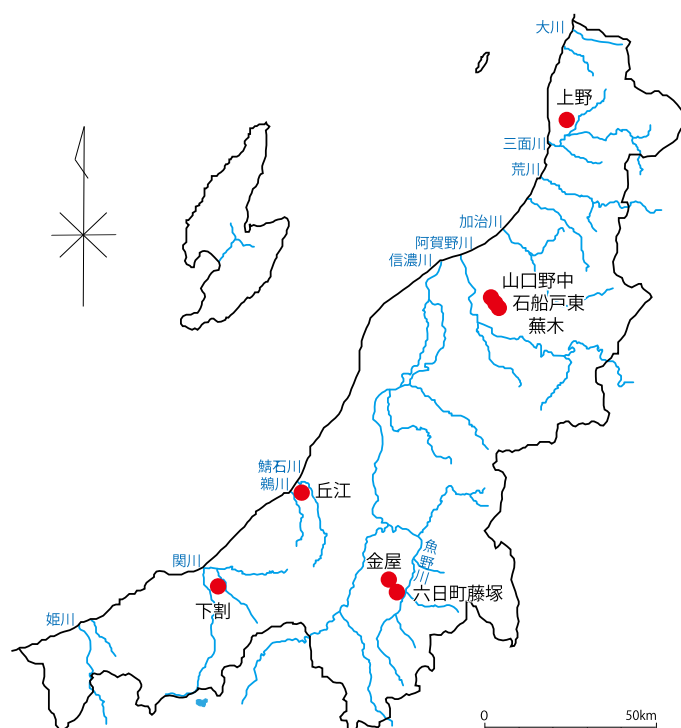


## Ⅱ 発掘調査・整理事業

### 1 本発掘調査実績一覧

事業者	路線	遺跡名 (回数)	所在地	調査期間	面積 (依頼)	面積 (実質)	主な 時代	主な遺構・遺物	担当者	報告書 刊行予定	備考	
新潟国道事務所	国道7号 朝日温海道路	上野遺跡 (Ⅵ)	村上市猿沢・ 檜原	4/25～11/30	7,582	8,560	縄文	平地建物・掘立柱建物・竪穴建物・ 石囲炉・焼土(地床炉)・土坑・ピット・ 自然流路・焼人骨集積土坑・ 土器・土製品・石器・石製品	石川 智紀	令和5年度 以降	支援：吉田・帆 莉・小柳特定共 同企業体	
		石船戸東遺跡 (Ⅳ)	阿賀野市百津	5/16～8/22 9/20～11/7	687	1,373	中世	掘立柱建物・井戸・土坑・溝・ピット・ 土師質土器・珠洲焼・金属製 品・木製品	藤本 隆之 (株)ノガミ	令和5年度	全委託 監理：荒川隆史	
	国道49号 阿賀野BP	蕪木遺跡 (Ⅲ)	阿賀野市堀越	4/15～7/5 9/26～11/16	589	422	古代 中世	土坑・溝・ピット・須恵器・土師 器・陶磁器・木製品	小村 正之 (株)ノガミ	令和5年度	全委託 監理：荒川隆史	
		山口野中 (Ⅵ)	阿賀野市月崎	7/13～7/29	144	81	縄文 古代 中世	溝・ピット・土器・珠洲焼	小村 正之 (株)ノガミ	令和5年度	全委託 監理：荒川隆史	
長岡国道事務所	国道8号 柏崎BP	丘江遺跡 (Ⅺ)	柏崎市田塚・ 茨目	5/9～11/30	5,776	5,733	弥生 古代 中世	流路・水田・杭列・井戸・土坑・ピット・ 溝・土器・土製品・石器・石 製品・木製品	安孫子雅史 (株)島田組	令和5年度 以降	全委託 監理：土橋由理 子	
	国道17号 六日町BP	六日町藤塚遺跡 (Ⅴ)	南魚沼市余川	4/18～11/24	2,775	1,438	古墳 古代 中世	掘立柱建物・土坑・ピット・溝・ 土器集積遺構・土器・須恵器・土 師器・珠洲焼・青磁・石製品・金 属製品	飯坂 盛泰	令和5年度 以降	支援： (株)イビック	
	国道253号 八箇峠道路	六日町藤塚遺跡 (Ⅵ)	南魚沼市余川	4/18～11/24	3,183	3,577						
		金屋遺跡 (Ⅵ)	南魚沼市余川	5/9～8/10	1,547	1,794	古代	土坑・ピット・溝・性格不明遺構・ 自然流路・土師器・須恵器・鉄製 品	中島 愛理	令和5年度 以降	支援： (株)イビック	
高田河川 国道事務所	国道253号 上越三和道路	下割遺跡 (Ⅹ)	上越市米岡・ 北田中	4/21～11/17	4,900	5,436	縄文 古墳 古代 中世	掘立柱建物・井戸・土坑・ピット・ 溝・畑作溝・水田遺構・祭祀跡・ 土器・土師器・須恵器・陶磁器・ 石器・木製品	加藤 学	令和5年度	支援： (株)ノガミ	
3事務所	6路線	9遺跡		合計面積	27,183	28,414						

### 2 本発掘調査遺跡位置図



### 3 本発掘調査

遺跡名	頁
上野遺跡 (Ⅵ)	7
石船戸東遺跡 (Ⅳ)	9
蕪木遺跡 (Ⅲ)	10
山口野中遺跡 (Ⅵ)	10
丘江遺跡 (Ⅺ)	11
六日町藤塚遺跡 (Ⅴ)	13
六日町藤塚遺跡 (Ⅵ)	13
金屋遺跡 (Ⅵ)	15
下割遺跡 (Ⅹ)	16

## かみの 上野遺跡 (VI)

事業名：国道7号朝日温海道路  
所在地：村上市猿沢・椋原  
面積：8,560㎡

■ **遺跡の立地と調査の概要** 遺跡は  
三面川の支流である高根川右岸の丘陵  
裾部に位置し、北西から南東へ緩やか  
に下る扇状地の扇端付近に立地する。  
遺跡の中心部の現標高は約35～39mで  
ある。縄文時代後期前葉(約4,000年前)  
を主体とした集落遺跡で、居住域や廃  
棄場がある集落部、その南側に広がる  
土砂流などが堆積した砂礫部(低地部)  
に大きく分けることができる。令和4  
年度も集落部の遺構発掘を行い、北側  
で包含層掘削と遺構検出を中心とした  
調査を行った。



● 遺跡近景 (南から)

■ **層序** 集落部では縄文時代後期前葉の遺物包含層が複数層確認でき、各層に対応した遺構・遺物が見つかった。大きく4層(4群)に分層でき、上位からⅢa層、Ⅲb層、Ⅲc層、Ⅲd層と呼称した。全て西側の丘陵由来の堆積層のため、花崗岩の風化礫が多く含まれる。Ⅲb層は黒色～褐色のシルト層で、この層に伴う遺構・遺物が最も多く、上野遺跡の主体時期の層と考えている。

■ **遺構** 令和3年度からの継続も一部含むが、令和4年度の調査では、竪穴建物3棟、平地建物40棟、大型掘立柱建物1棟、石囲炉・焼土(地床炉含む)63基、土坑52基、ピット(柱穴)4,376基、溝46条、その他40基、自然流路3条などが見つかった。また過年度に検出していた焼人骨集積土坑1基は、その時代的・地域的な重要性から移築を行い、新潟医療福祉大学と連携して室内調査を実施することにした。

今までに見つかった建物は、竪穴建物、平地建物、敷石建物、掘立柱建物に分類することができ、平地建物が主体と考えている。構成するピット(柱穴)が密集して検出されているので、石囲炉・焼土を建物の中心部分と想定して復元作業を進めている。復元した建物範囲には重複が認められることから、時期差



● 位置図 (1:50,000) (国土地理院5万分の1地形図「塩野町」平成15年発行・「村上」平成10年発行)



や建て替えなどを検討する必要がある。柱穴には上面・内部に礫が伴う例が多いが、柱痕部分に、立石状になっている例や、複数の礫が重なった状態で見つかる例もある。建物廃絶後に柱を抜き取り、意図的に礫を入れた可能性がある。石囲炉の礫で一部または全部が残存しない場合があるが、建物廃絶時に壊され、上記のような柱穴を埋める行為に用いられた可能性がある。

大型掘立柱建物を構成する径1 m以上の柱穴も数十基見つかった。掘形の埋土の中には複数層に分層できるものがあり、柱設置後に周囲を版築した結果と考えられる。全形を把握できた1棟は、棟持柱が伴う建物で、4間(約9.7m)×1間(約3.5m)の規模である。

焼人骨集積土坑は、まだ室内調査中だが、他所で焼いた人骨を複数体分ランダムに集積する埋葬方法を取っている。縄文時代後期前葉の合葬事例は全国に散見されるが、焼人骨を集積した類例は少ない。日本海側ということであれば、現在のところ最古の事例の可能性が高い。

■ **遺物** 土器・石器・土製品・石製品が収納箱(内寸約54×34×10cm)で約630箱出土した。土器の型式は、新潟県の縄文時代後期前葉の遺跡に広く分布する、三十稻場式と南三十稻場式が主体で、東北系(網取式)・関東系・信州系(ひんご式)の土器が含まれる。写真の頭頂部が突出しているハート形土偶は、南東北地域のものとの共通性が認められる。石器では完形の磨製石斧3点がまとまって、一つの穴から出土した例が目される。刃部が下になるように意図的に寄せ集めたか、袋に入れられていた可能性もある。

■ **まとめ** 上野遺跡は約4,000年前の縄文時代後期前葉が中心の遺跡だが、土器の年代から250~400年間ほど利用されていた場と考えられる。継続的かは不明だが、居住域に多数の建物痕跡が密集し、また遺物も多量であることから、大勢の人が同時期に生活していた可能性がある。今後も建物の分布・種類・性格・変遷、他の遺構(墓域・廃棄場など)との位置関係の把握などが重要である。(石川智紀)



● SI6788 平地建物 (南から)



● P5036 柱穴出土礫 (南西から)



● ハート形土偶



● P4784 柱穴出土磨製石斧 (北から)

いしふなとひがし

## 石船戸東遺跡 (Ⅳ)

かぶらぎ

## 蕪木遺跡 (Ⅲ)

やまぐちのなか

## 山口野中遺跡 (Ⅵ)

事業名：国道49号阿賀野バイパス

所在地：阿賀野市百津・堀越・月崎

面積：石船戸東遺跡 1,373㎡

蕪木遺跡 422㎡

山口野中遺跡 81㎡

### 石船戸東遺跡

■ 遺跡の立地と調査の概要 石船戸東遺跡は、阿賀野川右岸の沖積地に位置し、旧百津潟の縁に立地する。標高は約8mで、ほぼ平坦な地形である。令和4年度は中世～近代の遺構を検出した。内訳は、掘立柱建物6棟、井戸1基、溝状遺構53条、土坑37基、小穴（ピット）308基、性格不明遺構1基である。

■ 層序 基本層序はⅠ層～ⅩⅥ層に分層した。Ⅰ層（表土）下のⅡ層（中世遺物包含層）及びⅢ層（漸移層）は、ほ場整備により削平され残存しない。遺構の検出はⅣ層（明黄褐色砂質シルト～にぶい黄色シルト）の上面で実施した。

■ 遺構 最も大きな掘立柱建物は、桁行4間×梁間2間（8.10m×5.86m＝面積47.47㎡）と推定される。特筆すべきは、土坑や井戸が重複・隣接する掘立柱建物であり、同時期に併存していれば、馬小屋などであった可能性もある。井戸は井戸側が無い素掘り井戸で、平面形が径1.36mほどの歪な円形で、深さ2.2mである。底部の水溜りに直径38cm、高さ22cmの曲物が設置されている。曲物の直上から直径5.6cmの木製紡錘車が出土した。

■ 遺物 遺構内及び遺構検出面から珠洲焼・青磁・白磁・土師質土器・砥石・鉄製品などが出土した。土器類はいずれも小片のため器種や形態、時期の詳細な特定が困難であるが、近世以降を除いて概ね13～15世紀の範疇で大過ないと考える。

■ まとめ 調査地点により遺構の密度や種別は異なり、時代毎に居住域と田畑などの生産域、墓域などが存在すると考えられる。また、縄文時代晩期後半の相当層では、遺構・遺物を検出できなかった。

(株式会社ノガミ 藤本隆之)



位置図 (1:50,000)

(国土地理院5万分の1地形図「新津」令和3年発行)



石船戸東遺跡 (上空南から)



掘立柱建物 (北東から)



井戸内 曲物出土状況 (南から)



## 蕪木遺跡

■ **遺跡の立地と調査の概要** 阿賀野川の右岸、標高9.6～10.6mの沖積低地に立地する。平成26年度の第1次調査、平成27年度の第2次調査で、合計6,963㎡の調査が行われている。令和4年度調査区は、第1・2次調査区の東側と西側に位置し、溝状に細長い範囲を対象として調査を実施した。

■ **層序** I層～X層に分層した。古代・中世の遺構確認面はIV層上面で、V層以下は無遺物層、Ⅷ層以下は砂層である。

■ **遺構** 古代から中世の道を検出した。そのほか掘立柱建物2棟、土坑14基、溝25条、ピット77基、性格不明遺構1基と、地震痕跡である噴砂脈を検出した。主体となるのは9世紀代で、ほかに中世から近代の遺構を確認した。

■ **遺物** 出土遺物は9世紀代の土師器・須恵器が主体で、灰釉陶器皿や墨痕の認められる須恵器など、官衙的色彩を有するものが若干含まれる。

■ **まとめ** 9世紀中葉から後葉において、河川沿いに大型建物群が存在し、河川と建物群の間には道が存在することを確認した。調査区内には大地震による液状化の痕跡である噴砂脈を多数確認し、遺構との重複関係から、地震は集落が存在した頃に起こっていることを確認した。

(株式会社ノガミ 高野恒一)



● 蕪木遺跡 近景 (上空北から)



● 蕪木遺跡 噴砂脈検出状況 (東から)

## 山口野中遺跡

■ **遺跡の立地と調査の概要** 阿賀野川右岸の沖積地に位置し、標高6.4～7.5mの旧百津潟の自然堤防上に立地する。今回は第6次調査で、過年度調査区の南側に位置する。また、JR羽越本線を挟んで南東側には、同時期の遺構・遺物が検出された<sup>さかいづか</sup>境塚遺跡が存在する。

■ **層序** I層～IV層に分層し、IVa層上面で中世の遺構を検出した。

■ **遺構** 溝6条、ピット1基を検出した。溝の一部は、中世の道の側溝と考えられる。延長方向の境塚遺跡でも同様の溝が確認されている。

■ **遺物** 中世の溝から珠洲焼の片口鉢が出土した。そのほか縄文土器片、土師器片が出土した。

■ **まとめ** 本遺跡から境塚遺跡にかけて延びる中世の道が、旧百津潟の自然堤防に沿って曲がっていることが確認できた。

(株式会社ノガミ 高野恒一)



山口野中遺跡 (上空西から)

## 丘江遺跡 (XI)

事業名：国道8号柏崎バイパス

所在地：柏崎市田塚・茨目

面積：5,733㎡

■ **遺跡の立地と調査の概要** 遺跡は、柏崎平野の中央を流れる鯖石川左岸の沖積地に位置し、標高は6～7mである。平成26年度から継続して調査を行ない、遺跡の南側が鎌倉時代から近世の集落（居住域）、北側が水田（生産域）であることが明らかになっている。また、生産域の下層では弥生時代から平安時代の建物跡や溝・流路などを確認した。令和4年度の調査では居住域と生産域を対象とし、弥生時代から中世にかけての流路と中世の杭列を確認することができた。



● 調査区近景（北から）

■ **層序** 基本層序は、従来の調査に準拠し、I～IV層に分層した。I層は灰黄～黄褐色シルト層で近世以降の水田耕作土である。II層は中世の遺物包含層で、II a層（暗灰黄色シルト）、II b層（灰色シルト）、II c層（灰オリーブ色砂質シルト）に分層した。III層は灰～オリーブ黒色シルトで弥生時代から古墳時代の包含層に相当するが、出土遺物は極少数であった。IV層は、居住域では中世から近世の遺構検出面、生産域では弥生時代から中世初頭までの遺構検出面とした。

■ **遺構** 居住域で溝15条、土坑10基、ピット95基、井戸・溜井12基を検出した。また、生産域では水田13面と畦畔15条、それらに伴う溝を15条、その他にピット66基、土坑6基、井戸1基などを検出した。さらに後述する流路が埋まった後に形成された湿地部分に杭列が2列あり、近接して木製塔婆が出土した。杭列は割り材のやや太い杭の間に細い杭が打たれていることがわかった。また、水田の下から流路を3条検出した。南北方向の流路に東からの流路が2本合流するものである。流路の北側と南側では埋没状況や出土する遺物の遺存状況にやや相違があるが、それぞれの埋没過程において、堆積状況が近似する部分



● 位置図（1：50,000）（国土地理院5万分の1地形図「柏崎」平成19年発行）



広範囲に存在していることもわかった。

■ **遺物** 居住域では中世から近世にかけての遺物が出土した。珠洲焼、青磁、漆器椀、曲物、石臼、砥石などのほか、杭が出土した。また、近世の土人形である菅公像も出土した。生産域からは珠洲焼、土師器、漆器椀、杭のほか、木製塔婆が2点出土した。写真左の塔婆は上下・右側面を欠損し、阿弥陀如来を表す種子「キリーク」が薬研彫される。写真右は塔婆の頭部付近右側の破片で、界線・天蓋および瓔珞が認められる。各々の文様部分には漆が残存し、漆の上に極少量の金箔が残存している。令和3年度の調査で出土した金箔が押された木製塔婆とあわせて、3点が出土したこととなった。また、弥生時代から古墳・古代にかけての流路からは弥生時代後期の土器のほか、古墳時代の黒色土器などが出土した。弥生時代の土器は甕・壺・有孔鉢（<sup>こしき</sup>甑）、高杯・器台が主であり、古墳時代の黒色土器は高杯・鉢などである。

■ **まとめ** 令和4年度の成果は、従来の調査で明らかになっていた集落構造や水田構造を補完するものであった。特に生産域では、湿地部分を横断するように杭列が設置されていることがわかった。ここから出土した木製塔婆は、令和3年度に出土したのと同じ遺構面から出土しているので平安時代末から鎌倉時代前期の杭列・塔婆である可能性が高い。また、この湿地部分は弥生時代後期に存在した流路が埋まる過程で形成され、中世の初頭には水田へと変化した可能性が高い。この流路は自然流路と考えていたが、底部断面の一部が逆台形状を呈することから、人為的な改修がおこなわれたと判断できる。また、底面から弥生時代後期の土器が出土し、その上の流木層からも同様の遺物が出土していたことから、弥生時代後期に埋まったと判断していたが、その流木層から古墳時代の遺物が出土したことから古墳時代以降に埋まった可能性が高いこともわかった。

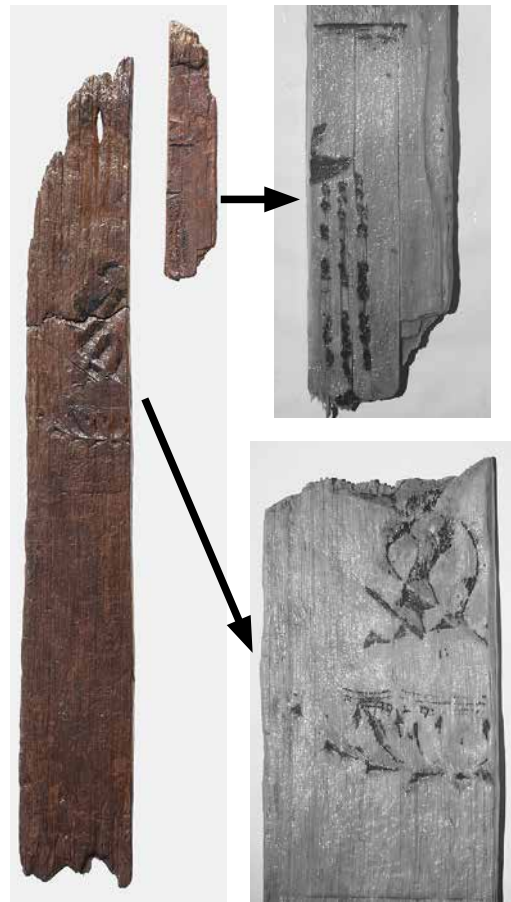
(株式会社島田組 安孫子雅史)



● 塔婆出土状況（北から）



● 流路完掘状況（西から）



● 木製塔婆

右：赤外線部分拡大写真



# 六日町藤塚遺跡 (V・VI)

事業名：国道17号六日町バイパス  
国道253号八箇峠道路  
所在地：南魚沼市余川  
面積：5,015㎡

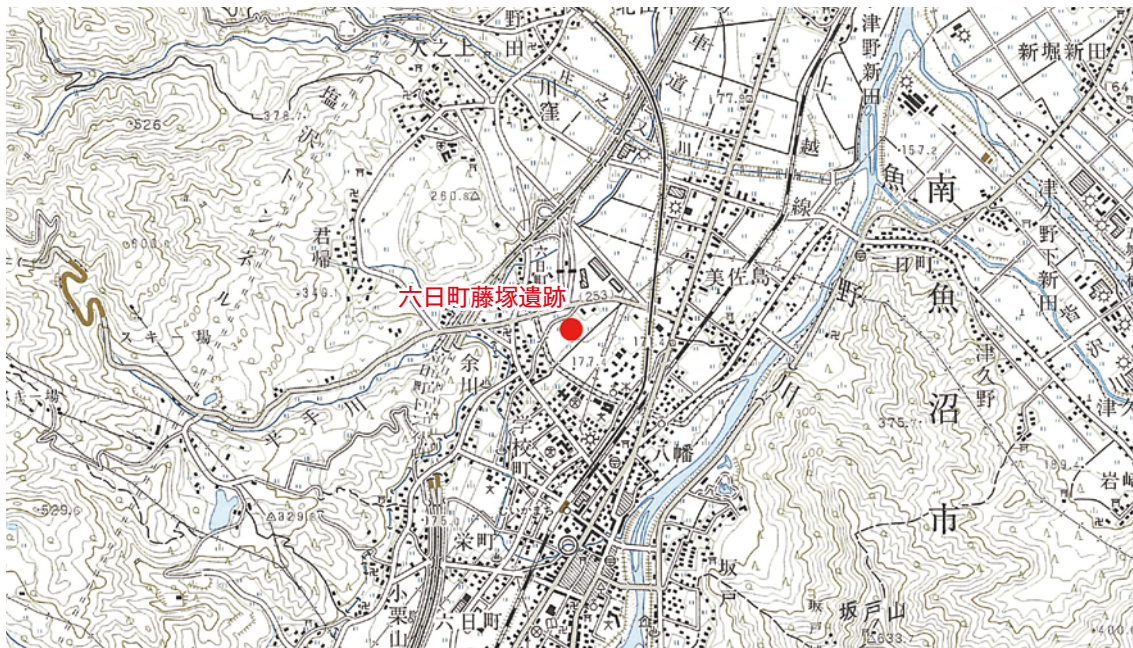
■ **遺跡の立地と調査の概要** うおのがわ 魚野川  
しょうのまたがわ 左岸の庄之又川によって形成された標高180mの扇状地に立地する。調査は2面を主体に、部分的に3面調査を実施している。時期は古墳時代後期前半、飛鳥時代～奈良時代、平安時代、中世の遺構・遺物を確認した。主体は6世紀後半の古墳後期前半と7世紀後半～8世紀初めの飛鳥時代～奈良時代である。調査面積は国道17号六日町バイパス（5次）が1,438㎡、国道253号八箇峠道路（6次）が3,577㎡である。



● 六日町藤塚遺跡（上空南東から）

■ **層序** 基本層序はこれまでの調査でI～XⅢ層に大別しておりこれに準拠した。飛鳥時代～奈良時代の遺物包含層をIV層、古墳時代後期前半をIX層とした。XⅡ層は古墳時代中期後葉～末の包含層であるが今回の調査では認められなかった。また、調査区南東側のⅢ層面で中世の遺構・遺物を検出した。

■ **遺構** 古墳時代後期前半の遺構は旧河道上の微高地に点在し、土器集積遺構6か所、焼土遺構を検出した。調査区南東隅で検出した土器集積遺構は5m四方に範囲に広がり、積み重なった土師器の高杯・杯・壺など多量の土器のほか、滑石製の子持勾玉・白玉、ガラス小玉、鉄族・刀子など鉄製品が出土し、神マツリが繰り返行われていた祭祀場と考えられる。飛鳥時代～奈良時代の遺構は調査区全域で確認し、2



● 位置図（1：50,000）（国土地理院5万分の1地形図「十日町」平成20年発行）



間×4間、2間×3間などの掘立柱建物が少なくとも9棟、土坑53基、畑作溝を検出した。調査区南側で検出した土坑から7世紀後半の須恵器と関東系土師器杯が出土した。平安時代と中世の遺構は少ない。平安時代は10世紀の土師器碗が出土した竪穴状遺構1基を検出した。中世は珠洲焼が出土した溝2条を検出した。

■ **遺物** 古墳時代後期前半の土器集積遺構は土師器の高杯・杯・壺が多く、須恵器は少量で、甕が2点出土した。白玉は、高杯の杯部などにまとまって入れられているケースが多い。石製模造品は少なく、勾玉形1点のみである。子持勾玉の出土は魚沼地域では初例である。子持勾玉は、親勾玉に突起状の子勾玉が付いていることから多産・豊穰などを祈る呪術的な祭祀遺物と考えられている。鉄製品は、鉄鎌・刀子などが出土した。飛鳥時代～奈良時代は須恵器の有台杯・無台杯・杯蓋、土師器の杯・長甕が出土した。平安時代、中世の遺物は少量である。平安時代は土師器碗、中世は珠洲焼、青磁が出土した。

■ **まとめ** 古墳時代後期前半は、旧河道上で土器を配置した祭祀の場が点在している。子持勾玉・ガラス小玉など特別な祭祀具が出土したことから、祭祀には有力な首長層が関わっていたものと考えられる。

古墳時代後期の集落が廃絶した後、今回の調査地点に7世紀後半から新たな集落を形成していることが明らかになった。関東系土師器は周辺の余川中道遺跡、坂之上遺跡でも出土している。関東からの移住が考えられ、律令移行期の集落形成を考える上で重要な資料である。

(飯坂盛泰)



● 古墳時代後期 土器集積遺構 (北西から)



● 古墳時代後期 子持勾玉と土器集積 (西から)



● 子持勾玉 長さ8.3cm 厚さ3.2cm 重量158.42g



● 飛鳥時代～奈良時代 掘立柱建物 (北から)



● 飛鳥時代～奈良時代  
関東系土師器杯が出土した土坑 (南東から)

# 金屋遺跡 (VI)

事業名：国道253号八箇峠道路  
所在地：南魚沼市余川  
面積：1,794㎡

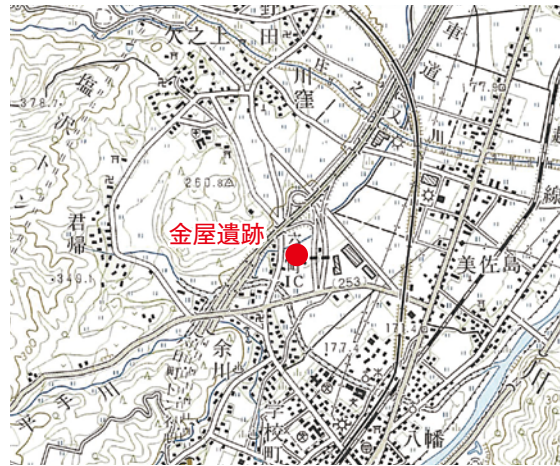
■ **遺跡の立地と調査の概要** うおぬまきゅうりょう 魚沼丘陵東麓にある独立丘のありこやま蟻子山東裾に位置し、標高192mの扇状地に立地する。令和3年度未調査の用水パイプ下の部分を2区、新規調査区を3区と呼称し、合わせて延べ1,794㎡（2区上層58㎡、下層61㎡、3区上層1,425㎡、下層250㎡）の調査を実施した。

■ **層序** 遺跡全体が後世の土石流の砂礫で覆われ、また攪乱・削平の影響も受けている。平安時代の遺物包含層を2層確認した。2区・3区ともにVIb層とVIc層の2層に分層できる。時期は、2区の上層が9世紀中葉、下層が9世紀前葉で、3区が上層・下層ともに9世紀中葉である。

■ **遺構** 上層面から竪穴建物3棟、土坑4基、ピット129基、溝11条、不明遺構1基などを検出した。下層面では土坑1基、ピット458基、溝3条などを検出した。

■ **遺物** 平安時代の須恵器・土師器・刀子、鍛冶関連の鉄滓・羽口が出土したほか、「酒長」と「女」と推定される墨書土器や刻書土器が出土した。「女」と書かれた刻書土器は令和3年度の調査でも確認されている。

■ **まとめ** 金屋遺跡は過年度の調査成果から、9世紀から11世紀にかけて営まれた大規模な集落で、武器を携え騎乗する有力な人物の存在が想定されている。今回の調査区は9世紀を中心とした平安時代集落の東側縁辺にあたると考えられ、その集落の一部が明らかになった。  
(中島愛理)



● 位置図

(国土地理院 5万分の1「十日町」平成10年発行)



● 竪穴建物 (上空北から)



● 墨書土器「酒長」



● 刻書土器「女」



# しもわり 下割遺跡 (X)

事業名：国道253号上越三和道路  
所在地：上越市米岡・北田中  
面積：5,436㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は高田平野の中央、飯田川左岸に所在し、標高約14mの沖積地に立地する。令和4年度の調査区は、延長950mに及ぶ遺跡範囲の西側に当たる市道区と東側の東区に分かれる。調査面は、市道区は6面、東区は2面である。

■ 層序 市道区ではI～X層に分層した。6面の遺跡が累積しており、IV層で中世、Va層上部・Va層で平安時代、VIa層で平安時代・飛鳥時代、VIb・VIc層で飛鳥時代、X層で縄文



● 調査区全景 (市道区、南から)

時代後期を検出した。なお、X層は現地表下4mに埋没しているが、東頸城丘陵から飯田川を經由して運搬された土砂に厚く被覆されたことによると考えられた。東区では、I～X層に分層した。表土直下のV層上面で中世の遺構面を検出し、下層(IX2層)に古墳時代前期の遺跡が埋没していることが明らかになった。

■ 遺構 【市道区】IV層では中世の水田遺構を検出した。畦畔の遺存状態が良好で、水田区画を明瞭に把握できた。Va層では平安時代(9世紀後半)の掘立柱建物と畑作溝を検出したが、長辺9mの大型建物が注目される。VI層では飛鳥時代(7世紀初頭)の周溝をもつ建物と祭祀遺構を検出した。祭祀遺構では、高杯を中心に手づくね土器等が意図的に配置されており、白玉の出土も見られた。古墳時代の土器集積遺構との共通点が多く、その系譜にある遺構と考えた。このほか、突帯付大甕を埋設した遺構も注目される。X層では、縄文時代後期のピット等を検出したが希薄であり、遺跡の縁辺と見られる。

【東区】表土直下から中世の掘立柱建物・井戸・溝を検出したが密度は希薄で、米岡集落に中心を持つ中世集落の縁辺に当たると見られる。下層では、微高地の頂部付近から古墳時代前期の土坑を検出した。

■ 遺物 【市道区】中世の遺物は、珠洲焼などが出土したが少数である。平安時代の遺物は、9世紀



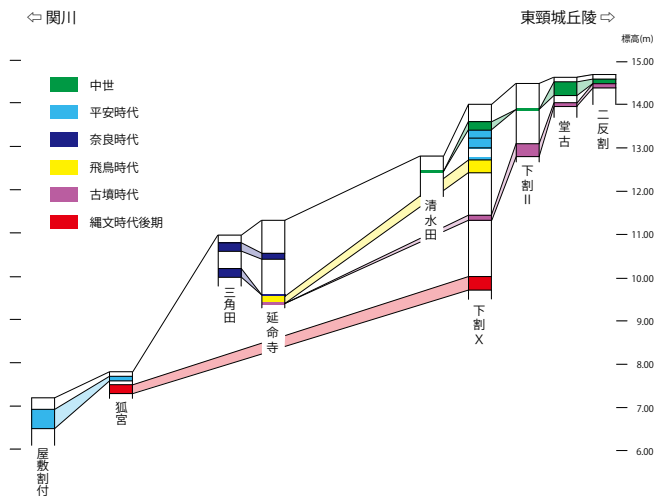
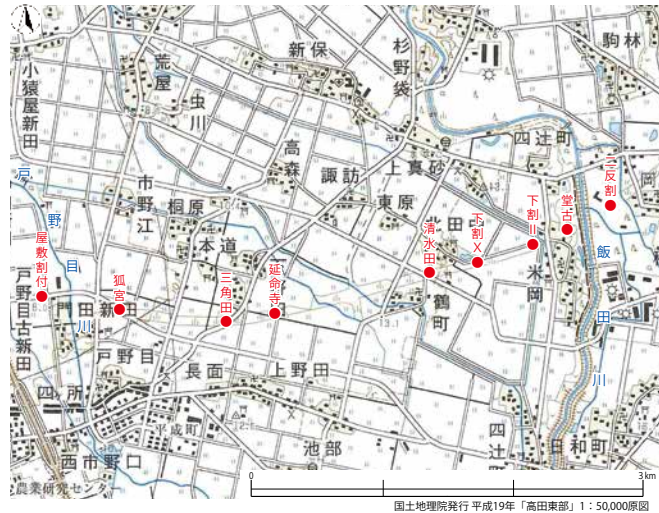
● 位置図 (1:50,000) (国土地理院5万分の1地形図「高田東部」平成19年発行)

後半の須恵器・土師器が溝等から多数出土した。また、多量の炭化米や二次的に被熱した須恵器が集中的に出土した範囲があり、倉庫等が火災にあった可能性が考えられた。飛鳥時代の遺物は、建物域で土師器の甕・甑、支脚が中心である一方、祭祀域では須恵器・土師器の高杯・杯が中心で、手づくね土器や白玉も出土した。遺物の構成においても、土地の使い分けを明瞭に把握できる。埋設されていた突帯付の須恵器大甕は、近隣で類例が見当たらないつくりの良いものであり、系譜については検討中である。縄文時代後期前葉の遺物は、信州北部に分布する堀之内2式併行のひんご2式を中心に、越後系や北陸系が少数含まれた。石器は、蛇紋岩製磨製石斧やヒスイ（敲石・原石）が特徴的に出土しており、糸魚川方面との関係が想定される。信州と日本海側の結節点に当たる当地域の様相が良く表れた遺物の構成といえる。

【東区】上層では、中世の井戸や溝から青磁・珠洲焼・瀬戸美濃焼等の陶磁器、木製品、石製品、金属製品などが出土した。下層では、古墳時代前期の土師器が出土した。

■ **まとめ** 本遺跡は、洪水堆積物をはじめ、多様な年代の遺跡が累積することが特徴である。10回目となる今回の調査で特に注目されるのは飛鳥時代の成果である。律令体制整備前夜の頸城地方の様子を知るうえで重要な情報となる。また、洪水災害を契機に建物を2度、建て替えていることが明らかになり、復興の様子を知ることができる事例としても注目される。

(加藤 学)



● 上越三和道路関連調査で発見された遺跡の深度



● 飛鳥時代の祭祀遺構 (西から)



● 飛鳥時代の埋設甕 (東から)

## 4 整理・報告作業

整理作業は、過年度調査の村上市上野遺跡、南魚沼市金屋遺跡を埋蔵文化財センターで行い、長岡市ササラ西遺跡、阿賀野市山口遺跡（第4次調査）・山口野中遺跡（第4・5次調査）・境塚遺跡（第5次調査）・新町遺跡（第2次調査）・石船戸東遺跡（第3次調査）を委託業者が実施した。令和4年度に調査した8遺跡は各整理所で実施した。ほかに令和3年度に報告書編集作業を完了した堂古遺跡（第3次調査）、大川城跡の印刷・刊行を行った。デジタル図化編集及び印刷用PDFデータ作成は専門業者に委託し、報告書印刷は印刷業者にPDFデータを受け渡すことで効率化を図っている。

**上野遺跡**（村上市）：国道7号朝日温海道路建設に伴う調査。縄文時代後期前葉の集落遺跡。整理作業は4年目を迎えた。第2・3・4次調査の土砂流地点出土遺物を対象に土器の接合・復元、石器の実測・トレース・写真撮影を行った。

**金屋遺跡**（南魚沼市）：国道253号八箇峠道路建設に伴う調査。平安時代の集落遺跡。遺物の接合・復元・実測・トレース、遺構・遺物図版及び写真図版の作成、原稿執筆、編集を行った。報告書刊行は令和5年度。

**ササラ西遺跡**（長岡市）：国道17号川口地区川口退避所整備に伴う調査。縄文時代の遺物散布地と中世の水田。遺物の接合・復元・実測・トレース、遺構・遺物図版及び写真図版の作成、原稿執筆、編集を行った。報告書刊行は令和5年度。

**山口遺跡（第4次調査）・山口野中遺跡（第4・5次調査）・境塚遺跡（第5次調査）・新町遺跡（第2次調査）・石船戸東遺跡（第3次調査）**：国道49号阿賀野バイパス建設に伴う調査。古代・中世の遺跡。山口遺跡・石船戸東遺跡・境塚遺跡について遺物の接合・復元・実測・トレース、遺構・遺物図版及び写真図版の作成、原稿執筆を行い、令和3年度に図版作成した山口野中遺跡・新町遺跡と合わせて編集を行った。報告書刊行は令和5年度。

## 5 令和4年度刊行報告書

シリーズNo 発行日	報告書名 所在市町村	体裁 頁数	事業名	調査 年度	遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	担当者
第292集 R4.08.31	堂古遺跡Ⅱ 第3次調査 上越市	A4版 76頁	一般国道253号 上越三和道路	R3	堂古遺跡	散布地 集落跡	古代 中世	井戸17基、溝6条、 土坑3基、ピット69基	土師器、須恵器、土師 質土器、珠洲焼、越前 焼、瀬戸美濃焼、青磁、 白磁、砥石、石硯、鎌、 銭貨、鉄滓、鍛冶滓・ 羽口、曲物	佐藤友子
第293集 R4.12.09	大川城跡 村上市	A4版 64頁	日本海沿岸東北自 動車道（国道7号 朝日温海道路）	R3	大川城跡	城館跡 散布地	南北朝～ 安土桃山 近世～ 近代	溝5条、犬走り2条	磁器、石製品（砥石）、 鉄製品	丹生泰雪 （（株）鳥田組）



## 6 保存処理

令和4年度は、担当職員1名と嘱託員5名で木製品・金属製品の保存処理を行った。

### ■ 木製品の洗浄・台帳作成・写真撮影

木製品保管棟で水漬け保管しており、保存処理は報告書刊行順に掲載遺物を優先して保存処理を行っている。遺物表面の泥汚れを水洗い後、長期間で染み込んだ鉄分などの汚れを落とすために薬液に漬けて脱鉄処理を行う。その後、処理前の状態を写真に記録してから、トレハロース含浸処理を始める。

### ■ 木製品の保存処理

乾燥による木材の収縮・変形を防止して強化を図るため、木材中の水分を空気中でも安定な糖アルコール（トレハロース）に置換し、結晶化させる「トレハロース含浸法」を採用している。令和4年度は大型品と整理作業を行った遺跡の遺物を実施した。含浸期間を8か月とした。温度調整が可能な大型含浸槽（槽内長さ3.0m）2台で実施した。

**大型木製品** 大型含浸槽2台を1サイクル稼働した。令和4年度は11遺跡252点について、トレハロース含浸から結晶化（取出し乾燥）までの作業を実施した（第1表）。前年の令和3年度に保存処理を実施した大型木製品18遺跡、292点はスチームクリーナーで表面で結晶化したトレハロースを溶かして拭い、しばらく乾燥させて保存処理を完了した（第2表）。この後、遺物ラベルと保存処理台帳を確認して収蔵庫に収納した。



大型含浸装置での含浸状況



大型含浸装置での含浸状況



大型含浸装置から取り上げ後の乾燥



スチーム処理後の乾燥



金属製品さび落としの状況



金属製品保存処理後の梱包状況

■ 金属製品の保存処理（第3表）

X線透過撮影により遺物の構造や劣化状態を確認した後、遺物表面を覆っている錆をグラインダーやメスなどで除去する。その後、腐食を促進する塩化物・硫酸を脱塩処理により取り除き、遺物の強化と腐食促進因子による再汚染防止を目的としたアクリル樹脂の含浸を行った。

令和4年度は9遺跡の鉄製品182点について、11遺跡123点の青銅製品の保存処理が終了した。

第1表 木製品の保存処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
180	中曽根Ⅱ	9
209	前波南Ⅱ	34
210	荒町南新田	25
211	六反田南Ⅱ	28
212	中田原Ⅱ	9
218	下新保高田	33
219	六反田南Ⅲ	28
221	古渡路	8
223	村前東A	8
	ササラ西	52
	新町Ⅱ	18
	合計	252

第2表 木製品の表面処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
157	住吉	6
176	窪田Ⅰ	23
179	桜林Ⅱ	2
182	岩ノ原	56
189	寺前	153
192	大館跡Ⅱ	4
193	谷地	5
210	荒町南新田	1
212	中田原Ⅱ	1
223	村前東A	7
228	山岸	1
232	境塚	4
245	野地Ⅱ	3
247	小船渡	11
258	山口野中Ⅱ	2
262	境塚Ⅱ	5
263	新町	7
277	蕪木	1
	合計	292

第3表 金属製品保存処理

【鉄製品】

報告書 No.	遺跡名	処理点数
232	境塚	71
236	二反割	1
237	柄目木Ⅱ	22
239	宮花町	17
241	山崎	2
246	剣野沢	19
247	小船渡	5
248	山口野中	4
	金屋Ⅳ・Ⅴ	41
	合計	182

【青銅製品】

報告書 No.	遺跡名	処理点数
140	東原町	40
232	境塚	1
233	川久保	8
234	千古作Ⅱ	2
237	柄目木Ⅱ	2
239	宮花町	8
241	山崎	2
244	姫御前Ⅲ	6
246	剣野沢	25
247	小船渡	28
	金屋Ⅴ	1
	合計	123

## Ⅲ 普及啓発事業

### 1 現地説明会等

令和4年度の現地説明会は、丘江遺跡・上野遺跡・下割遺跡・六日町藤塚遺跡で開催し、延べ499人が参加した。また、丘江遺跡で令和3年度に出土した金箔が押された木製塔婆と、上野遺跡で令和2年度に検出され、令和4年度に取り上げた焼人骨集積土坑の公開を行い、延べ233人が参加者した。開催前に現地を報道機関に公開するなどして積極的に広報した結果、多くの参加者を得ることができた。

#### 令和4年度現地説明会等

開催日	内 容	事 業 名	遺跡所在地	主な時代	会 場	参加人数
7月24日	丘江遺跡出土木製塔婆公開	国道8号柏崎バイパス	柏崎市	中世	新潟県埋蔵文化財センター	136名
9月3日	丘江遺跡現地説明会	国道8号柏崎バイパス	柏崎市	弥生・中世	丘江遺跡	64名
9月10日	上野遺跡現地説明会	国道7号朝日温海道路	村上市	縄文	上野遺跡	203名
10月27日	下割遺跡現地説明会	国道253号上越三和道路	上越市	縄文・古代	下割遺跡	105名
10月30日	上野遺跡出土焼人骨集積土坑公開	国道7号朝日温海道路	村上市	縄文	新潟医療福祉大学	97人
11月3日	六日町藤塚遺跡現地説明会	国道17号六日町バイパス 国道253号八箇峠道路	南魚沼市	古墳・古代	六日町藤塚遺跡	127名
合 計						732名

### 2 企画展・常設展

#### ■ 企画展1「地味にすごい！下越の縄文時代」

新潟の縄文時代は、信濃川中上流域（中越）の火焰型土器や糸魚川（上越）のヒスイが全国的に有名である。しかし、その陰に隠れがちな下越にも魅力的な縄文遺跡が多数存在する。本展では共同開催6館が所蔵する縄文時代の優れた出土品を展示し、広く下越地方の縄文時代の遺跡を理解してもらうことをめざした。会期は4月22日から9月25日であった。



「地味にすごい！下越の縄文時代」展示の様子

共同開催6館の会期中の入場者数は、新潟県埋蔵文化財センター8,413人、新潟市文化財センター4,229人、縄文の里・朝日781人、阿賀野市歴史民俗資料館534人、胎内市美術館（会期中途から黒川郷土文化伝習館）2,661人、阿賀町郷土資料館481人。入館者合計は17,099人である。

埋蔵文化財センターでは村上市地域の縄文時代の遺跡の一つとして、元屋敷遺跡を展示した。元屋敷遺跡からは磨製石斧の未成品13,000点余りと、成品3,000点程が出土した。完全な形で残る磨製石斧のうち大型品（全長7cm以上）の約90%が地元産であるが、小型品（7cm未満）は地元産が30%程で、糸魚川産と推定される蛇紋岩製が70%を占める。ノミのような使い方をする小型品は蛇紋岩製が一級のブランド品として重宝されたようだ。

また、阿賀野川流域の遺跡として阿賀野市萩野遺跡、阿賀町北野遺跡、阿賀野市山口野中遺跡を展示した。これらの遺跡から出土した土器を観察することで、中期～後期の土器の移り変わりをよく知ることができる。下越は伝統的に東北との共通点を持つ土器が多い傾向にあるが、異なる時期もあり、中期前葉では北陸地方の影響が強く、後期初頭には越後で色濃く分布する三十稲場式土器が盛行した。これらは特定



地域の様相に統一されない新潟県ないしは下越の特徴をよく示している。

これらの展示品148点をとおして、下越地方の縄文時代の魅力を知っていただくことができた。

## ■ 企画展2「謎の越後国府に迫る」

開催期間は令和4年10月7日～12月18日である。現在の新潟県本州側、越後国域が確定されたとされるのは西暦712年（和銅5年）のこととされている。

平成24年に新潟県教育委員会が中心となって行った「越後国域確定1300年」記念事業を実施してから10年が経過したことから、その後の発掘調査や研究成果を踏まえ、西暦712年前後の歴史に迫った。

地名などをもとに国府推定地は複数あったが、昭和55～59年の国道18号バイパスに関わる上越市今池遺跡の発掘調査により大規模な掘立柱建物で構成される遺跡が姿

を現し、近接する下新町遺跡、子安遺跡、本長者原廃寺跡を含め有力な国府推定地となった。子安遺跡は、近年上越市が大規模に発掘調査を行っていることから、最新の調査成果を踏まえた遺跡の紹介に努めた。

越後国は国域が大きく変遷し、国府も移動していることから、その過程を丁寧に追った。長岡市八幡林遺跡、同市下ノ西遺跡や村上市西部遺跡、胎内市蔵ノ坪遺跡などから出土した木簡や漆紙文書の成果なども盛り込み、越後国司による分割統治の可能性にも触れることができた。

また、頸城郡衙の可能性が高い妙高市栗原遺跡や令和4年3月に県指定となった上越市延命寺遺跡の遺物を多く展示した。延命寺遺跡は周辺の集落の中でも中核的な遺跡で、飛鳥時代に続く奈良時代の木簡や腰帯金具、木製祭祀具が多数出土したことから、これらの資料は飛鳥時代に出現した有力者の集落が、奈良時代に入り地方行政の末端に位置付けられていく過程を示す資料であると解説した。

今池遺跡周辺に国府が設置された地理的条件を検証し、最後に関川河口付近に11世紀ころまでに国府が移動し、中世の国府から今に栄える直江津の港に移転したことを解説した。

これらの展示品150点をとおして県民の皆様へ郷土の歴史への理解を深めていただいた。会期中の入館者は3,924人であった。

## ■ 常設展

速報展示コーナーにおいて、上越市下割遺跡（縄文時代後期前葉・飛鳥時代・平安時代）、南魚沼市六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡（古墳時代）の展示を行った。当展示ケースでは職場体験で来館した中学生がネームプレート作りやレイアウトを決めながら展示作業を行った。そのほか令和3年度に引き続き追加の展示ケースを3つ設けた。テーマは校外学習の解説補助として、当センターの体験メニューでもある火起こし・勾玉、土器や石器の実測とした。



「謎の国府に迫る」展示の様子



速報展示コーナー

### 3 発掘！新潟の遺跡2022・遺跡発掘調査報告会・講演会等

#### ■ 発掘！新潟の遺跡2022

新潟県埋蔵文化財調査事業団が令和4年度に発掘調査および整理作業を行った村上市<sup>かみの</sup>上野遺跡、柏崎市<sup>おかえ</sup>丘江遺跡、南魚沼市<sup>むいかまちふじか</sup>六日町藤塚遺跡・<sup>かなや</sup>金屋遺跡、上越市<sup>しもわり</sup>下割遺跡の5遺跡の出土品187点および写真パネルなどを展示した。速報性が高い内容で、多くの展示品が初公開となった。会期は1月13日から3月21日であった。会期中の入館者は2,756人であった。

#### ■ 第26回遺跡発掘調査報告会

令和5年3月5日に埋蔵文化財センターで開催した。午前は、令和4年度調査成果報告として、村上市上野遺跡、柏崎市丘江遺跡、南魚沼市六日町藤塚遺跡、上越市下割遺跡の報告を行った。

午後のシンポジウム「南魚沼市金屋遺跡からみた古代<sup>こうずけ</sup>上野と越後」では、南魚沼市金屋遺跡の調査成果報告の後に、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の神谷佳明氏から「古代上野と越後の交流」と題する講演をいただき、その後のディスカッションでは、古代の上野と越後の交流について議論した。会場参加者42人、オンライン配信申込者62人(県内39人、県外23人)であった。

#### ■ 新潟県埋蔵文化財センター講演会

企画展1・2のテーマに合わせ、4月から12月に全9回の講演会を実施した。新型コロナウイルス感染症の対策として令和3年度に引き続き会場定員を40人とし、オンライン配信を行った。合計で会場参加者321人、オンライン配信申込者615人(県内346人、県外269人)であった。

#### ■ 水曜日の職員講座

県・市町村の専門職員が、調査・研究成果を通じて遺跡・遺物の重要性を発信する講座を12月から3月に全5回計画した。第1回・第2回は豪雪等の影響で中止としたが、令和5年度にあらためて実施することとした。会場定員を40人とし、オンライン配信を行った。実施できた全3回の合計で会場参加者78人、オンライン配信申込者178人(県内99人、県外79人)であった。

## 4 広 報

#### ■ 年 報

1年間の事業概要を総括したもので、8月31日に令和3年度版(A4版34頁)を刊行した。印刷物を30部作製するとともに、埋蔵文化財調査事業団のホームページで公表した。

#### ■ 埋文にいがた

発掘調査速報やイベント情報を中心とする広報紙で、8月・11月・3月に発行した。印刷部数は各2,000部である。

## 令和4年度発行「埋文にいがた」内容一覧

号	発行年月日	調査・整理遺跡の紹介	そ の 他	県内の遺跡・遺物
118	令和4年 8月5日	令和4年度本発掘調査遺跡・整理遺跡の紹介 上野遺跡（村上市）	埋文コラム「須恵器円面硯」 埋文コラム「文化財と人をつなげる一助としてのSNS」 埋文コラム「歴史の道紹介 清水越（越後と上野国境）」 企画展1「地味にすごい！下越の縄文時代」	延命寺遺跡出土品 （上越市）
119	令和4年 11月25日	丘江遺跡（柏崎市） 六日町藤塚遺跡（南魚沼市） ササラ西遺跡（長岡市）	埋文コラム「土器集積遺構について」 埋文コラム「緑釉陶器」 埋文コラム「歴史の道紹介 会津街道・諏訪峠（新発田から会津へ至る道）」	本ノ木遺跡・ 田沢遺跡群 （十日町市）
120	令和5年 3月24日	下割遺跡（上越市） 石船戸東遺跡・蕪木遺跡（阿賀野市）	埋文コラム「井戸から鉄鍋と鉄瓶が…」 埋文コラム「小さな形の土器」 埋文コラム「歴史の道紹介 相川道・松ヶ崎道（佐渡の街道）」 令和5年度企画展1開催予告／青少年少女考古学教室について	高平遺跡出土品 （村上市）

### ■ 年間パンフレット

埋蔵文化財センターが行う普及事業を紹介する令和4年度年間パンフレットを20,000枚作成し、来館者や県内外の博物館等の施設に配付した。

### ■ ホームページ

埋蔵文化財センターホームページでは、センターの施設紹介、展示案内、利用案内、企画展・講演会・体験イベントなどの催しもの案内、講演会等申し込みフォーム、校外学習の案内、各種申請書類のダウンロードを掲載した。

埋蔵文化財調査事業団ホームページでは、事業団の組織・業務の公開のほか、発掘調査状況、各発掘調査現場での現地説明会の案内、刊行図書等の情報を掲載した。

令和4年度のアクセス数は30,698件であった。

### ■ メールマガジン・Facebook・Twitter・YouTube、その他

メールマガジンは講演会や体験イベントなどの情報を随時配信した。Facebook・Twitterはこれに加え、展示品の紹介や速報性の高い情報などを随時配信した。メールマガジンは登録数30件（昨年度比－1）、Facebookはフォロワー数930件（＋161）、Twitterはフォロワー数2,262件（＋510）である。

YouTubeは企画展の紹介動画を配信した。令和4年度は新たに1本を配信した。埋蔵文化財センターYouTubeチャンネルの登録者数は325人（＋210）であり、令和4年度のライブ配信も含めた視聴回数は23,105回（＋18,215）であった。

## 5 校外学習・体験イベント等

### ■ 校外学習・出前授業・職場体験・団体見学

令和4年度に校外学習で来館した学校等は38校2,635人、出前授業は11校765人、職場体験は4校22人（複数日来館含む）、合計53校3,422人であった。ほぼ令和3年度と同水準であり、新型コロナウイルス感染症流行以前と同等の状況であった。団体見学は11団体204人であった。



校外学習での火起こし体験

令和4年度 見学・体験学習等団体一覧

学校（校外学習）

No.	月 日	曜	学 校 名	体 験 等 の 内 容							人数 引率者含む	
				実物学習	石器体験	火起こし	勾玉作り	展示見学	仕事見学	土器接合		その他
1	5月2日	月	五泉市立川東小学校	○	○			○	○	○	29	
2	5月26日	木	新潟市立巻北小学校	○	○	○		○	○		99	
3	5月27日	金	新潟市立新津第二小学校	○	○	○	○	○	○		64	
4	5月31日	火	新潟市立木崎小学校	○	○			○	○		72	
5	6月1日	水	新潟市立南中野山小学校	○	○	○		○	○		70	
6	6月22日	水	五泉市立五泉南小学校	○		○		○	○		92	
7	6月23日	木	新潟市立新潟小学校			○	○				110	
8	6月24日	金	新潟市立結小学校			○	○	○	○		111	
9	6月28日	火	柏崎市立剣野小学校				○	○	○		64	
10	6月30日	木	新潟市立笹口小学校	○	○	○		○	○		42	
11	7月1日	金	新潟市立阿賀小学校	○	○	○		○	○		47	
12	7月4日	月	新潟市立亀田東小学校	○	○	○		○	○		66	
13	7月5日	火	新潟市立亀田東小学校	○	○	○		○	○		64	
14	7月7日	木	新潟市立小合東小学校	○				○	○	○	13	
15	7月8日	金	新潟市立坂井輪小学校	○	○	○		○	○		110	
16	7月12日	火	新潟市立木戸小学校	○	○	○		○	○		72	
17	7月13日	水	新潟市立小林小学校	○	○	○		○	○		36	
18	7月14日	木	新潟市立江南小学校	○	○		○	○	○		56	
19	9月8日	木	新潟市立女池小学校	○	○		○	○	○		153	
20	9月9日	金	新潟市立新通小学校	○	○		○	○	○		84	
21	9月14日	水	新潟市立浜浦小学校				○	○	○		75	
22	10月12日	水	新潟県立五泉特別支援学校	○	○	○	○	○			14	
23	10月14日	金	新潟市立和納小学校	○	○		○	○	○		33	
24	10月18日	火	新潟市立新津第三小学校	○	○	○	○	○	○		139	
25	10月19日	水	新潟市立金津小学校	○	○		○	○	○		46	
26	10月20日	木	新潟市立東中野山小学校	○			○	○	○		117	
27	10月21日	金	三条市立月岡小学校	○	○	○			○		52	
28	10月25日	火	新潟市立桜が丘小学校	○		○		○	○		85	
29	10月27日	木	新潟市立智野木小学校	○		○	○	○	○		71	
30	10月28日	金	新潟市立日和山小学校	○		○	○	○	○		77	
31	10月31日	月	新潟市立東青山小学校	○		○		○	○		86	
32	11月2日	水	燕市立大関小学校	○	○	○		○	○		31	
33	11月4日	金	新潟市立中野山小学校	○	○		○	○	○		74	
34	11月7日	月	新潟市立岡方第二小学校	○	○						13	
35	11月8日	火	新潟市立小針小学校			○	○	○	○		63	
36	11月10日	木	新潟市立小針小学校			○	○	○	○		63	
37	11月17日	木	新潟市立新通つばさ小学校	○	○		○	○	○		75	
38	11月18日	金	新潟市立山湯小学校	○				○	○	○	67	
			合 計	31	24	22	18	34	34	4	0	2,635

学校（出前授業）

1	5月24日	火	弥彦村立弥彦小学校	○	○						65	
2	6月8日	水	新潟市立万代長嶺小学校	○	○						52	
3	6月9日	木	新潟市立豊栄南小学校	○	○	○					16	
4	6月20日	月	新潟市立関屋小学校	○	○						36	
5	6月27日	月	新発田市立外ヶ輪小学校	○	○						52	
6	7月19日	火	柏崎市立北鱈石小学校	○	○	○	○				13	
7	7月20日	水	聖籠町立亀代小学校	○	○						54	
8	9月12日	月	新潟市立鳥屋野小学校			○	○				170	
9	9月15日	木	新潟市立鳥屋野小学校			○	○				170	
10	10月11日	火	新潟市立大通小学校	○	○						82	
11	1月26日	木	新潟市立濁川小学校	○						○	55	
			合 計	9	8	4	3	0	0	0	1	765

学校（職場体験）

No.	月 日	曜	学 校 名	体 験 等 の 内 容							人数 引率者含む	
				館内見学	注記	接合	拓本	実測	保存処理	展示作業		その他
1	5月17日	火	新潟市立新津第五中学校	○	○	○	○		○		7	
2	5月18日	水	新潟市立新津第五中学校					○		○	7	
3	9月21日	水	新潟市立小須戸中学校	○	○	○	○		○	○	4	
4	9月22日	木	新潟市立小須戸中学校					○		○	4	
			合 計	2	2	2	2	2	2	2	2	22

一般・大学等・その他（職員が解説等をした団体）

No.	月 日	曜	団 体 名	体 験 等 の 内 容							人数 引率者含む	
				実物学習	石器体験	火起こし	勾玉作り	展示見学	仕事見学	土器接合		その他
1	4月22日	金	西遊旅行					○			13	
2	6月3日	金	大通ふれあいネット					○			18	
3	6月14日	火	西蒲区を歩こう会					○			19	
4	7月19日	火	西蒲区を歩こう会					○			20	
5	8月4日	木	寺尾上町自治会					○			68	
6	8月18日	木	新潟美術館博物館実習					○	○		3	
7	9月5日	月	敬和学園大学					○	○		6	
8	10月26日	水	坂井砂山南交會					○			17	
9	11月16日	水	ふるさと文化探訪会					○			20	
10	11月25日	金	香川県大川広域行政組合議会					○	○		12	
11	3月8日	水	阿賀野市商工観光課					○			8	
			合 計	0	0	0	0	11	3	0	0	204

校外学習の内容は、本物を用いた歴史学習、火起こし・勾玉作りなどの体験学習、展示見学・仕事見学、土器接合・拓本などの職場体験である。一度の受け入れ人数の上限を原則80人程度とし、換気や消毒、座席の間隔を確保するなど、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施した。

#### ■ 少年少女考古学教室

少年少女考古学教室（全4回）は、学年や地域が違う仲間たちと交流しながら、土器や石器などの遺物に触れ、様々な体験活動とおして古代の人々の知恵や生活を学ぶことを目的とする。令和4年度も、全4回連続での参加を条件に募集し、遺跡や歴史に興味がある小学4年生～中学2年生の15人が参加した。

座学での解説授業や展示見学・施設見学のほか、「土器作り」「縄文ポシェット作り」「勾玉・管玉作り」「土鈴作り」「石斧で木を切る」「火起こし」「土器でクリを煮る」「弓矢」「拓本」などをおこない、悪天候により発掘体験、外部施設見学は中止となったが様々な体験をすることができた。第4回では、それまで学んだ成果をポスターにまとめ、作品とともに1階エントランスホールで約1か月間展示した。



少年少女考古学教室でのミニ土器作り

#### ■ 埋蔵文化財センター見学会・体験会

令和2・3年度に続き、大人向けの見学会を平日に行った。今年度は、第1回を見学会、第2・3回を体験会として実施した。

第1回の見学会では、埋蔵文化財センターの概要を説明した後、調査員室・収蔵庫・保存処理室・木製品保管棟を見学した。調査員室では整理作業を見学したあと、土器の接合の体験、実測道具を実際に使って縄文土器の形を取る体験をおこなった。

第2回ではオープン陶土を用いてのミニ土器作りを行った。縄文時代の土器作りについて説明したあと、縄文土器のスケッチを行い、その後、土器作りを行った。

第3回では2班に分けて「縄文時代の土器・石器の観察」「須恵器の拓本」を交互に行った。縄文時代の土器・石器の観察では、土器の作り方・文様・使い方を解説・観察したあと、石器を手に取りながら解説した。須恵器の拓本では、平安時代の甕に残る当て具・叩き板の痕跡について説明したあと、実際に文様の拓本をとった。

全3回の参加者は、合計で22人であった。

#### ■ 博物館実習

令和4年度に限り、学芸員資格取得のための博物館実習として2名の大学生を受け入れた。期間は8月29日から9月6日であった。



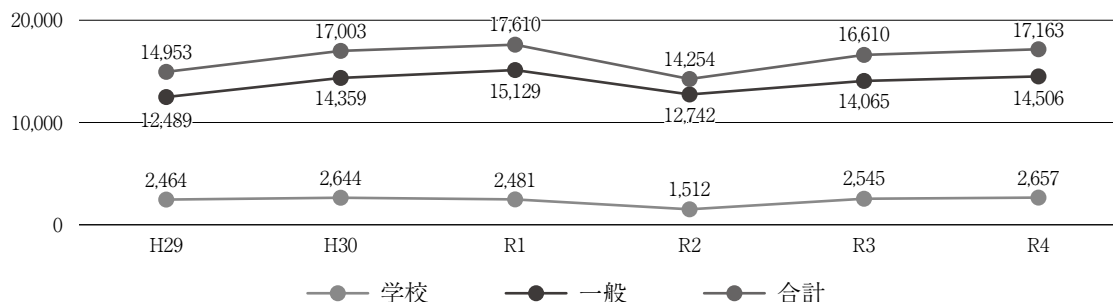
第3回体験会での「須恵器の拓本」



## 6 入館者数

新潟県埋蔵文化財センターは年末年始を除き9時から17時まで開館している。令和3年度よりも来館者数は回復した。また、埋蔵文化財センター講演会は定員を40名に減じて行い、当日会場で聴講できない方のためにYouTubeで講演の様子を流した。令和4年度の入館者は17,163名である。

入館者数（令和5年4月1日現在）



## 7 出土品の管理

埋蔵文化財センターで保管する出土品や写真・図面等の貸出し、掲載、使用、閲覧の依頼に対し、許可及びこれに係る事務を行っている。令和4年度は企画展等への遺物の貸出し15件7,587点（うち長期貸出し7,292点）、書籍等への写真掲載15件51点、遺物分析や写真放送などの使用5件12点、遺物の閲覧22件1,079点（未報告遺物資料6箱を含む）の合計57件に対応した。詳細は新潟県文化課が発行する『令和4年度新潟県文化財年報』に掲載される予定である。

## 8 図書

埋蔵文化財センターの資料室では、新潟県内を中心に全国の発掘調査報告書、考古学関係の雑誌など89,500冊余を所蔵し、平日にどなたでも閲覧することができる。事業団では、図書の受入れ・整理作業、閲覧・複写の対応などを行っている。令和4年度は2,220冊を受入れ、外部利用者は93人であった。新規受入図書一覧及び県内市町村別発掘調査報告書等目録は、事業団ホームページに掲載している。

### 蔵書統計

年 度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	2019年度	R2年度	R3年度	R4年度
新刊受入冊数	2,674	2,360	2,450	2,450	2,320	2,361	2,250	2,220	2,300	2,770	2,220
累積冊数	65,827	68,187	70,637	73,087	75,407	77,768	80,018	82,238	84,538	87,308	89,528

外部利用者数（※ R2.3.2～5.25、R3.9.3～9.16新型コロナウイルス感染拡大防止の為、センター閉館。R4.1.18～3.6まん延防止等重点措置）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	2019年度	R2年度	R3年度	R4年度
市町村教委埋蔵文化財担当者	45	34	36	30	29	19	15	13	14	22	5
大学生・大学院生・大学関係者	24	23	6	13	10	17	8	10	9	10	11
小学生・中学生・高校生	2	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0
教員	4	1	1	1	0	1	0	2	1	0	0
埋文関係民間企業	91	49	50	19	33	24	13	11	6	9	27
その他埋蔵文化財関係者	51	71	24	30	21	32	49	21	23	22	26
一般	16	19	25	25	18	6	16	19	39	36	24
合計	233	197	142	118	111	99	101	79	93	99	93

外部利用者コピー機使用件数・枚数（※ R2.3.2～5.25、R3.9.3～9.16新型コロナウイルス感染拡大防止の為、センター閉館。R4.1.18～3.6まん延防止等重点措置）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	2019年度	R2年度	R3年度	R4年度
コピー件数	143	107	90	53	67	49	38	43	39	53	37
コピー枚数	7,841	7,473	4,606	1,858	3,002	2,177	2,369	2,110	1,511	2,465	1,531

## IV 研修・各種委員会

### 1 職員研修

#### (1) 調査課、普及・資料課研修

埋蔵文化財専門職員としての資質・能力向上を目的に、新潟県などが実施する研修会・講習会に参加した。

##### ① 文化庁 令和4年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会

(令和4年8月31日～9月1日 石川県金沢市)：オンライン参加者1名

講義1 「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

講義2 「文化観光推進法をめぐる議論」

講義3 「水中遺跡ハンドブックの刊行について」

講演 「水中遺跡の保存と活用」

「埋蔵文化財保護行政における保存と活用XIX－埋蔵文化財を地域にどう活かすか－」

趣旨説明

基調報告1 「埋蔵文化財を地域に活かす1」

基調報告2 「埋蔵文化財を地域に活かす2」

基調報告3 「埋蔵文化財を地域に活かす3」

基調報告4 「埋蔵文化財を地域に活かす4」

##### 文化庁 令和4年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会

(令和5年2月8日～10日 長崎県佐世保市)：参加者1名

講義1 「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

講義2 「文化観光推進法をめぐる議論」

講義3 「水中遺跡ハンドブックの刊行について」

講演 「水中遺跡の保存と活用」

「埋蔵文化財保護行政における保存と活用XIX－埋蔵文化財を地域にどう活かすか－」

趣旨説明

基調報告1 「離島「高島」での文化財の可能性への挑戦－自分たちの島は、自分たちで守る－」

基調報告2 「鷹島海底遺跡の調査・活用」

基調報告3 「打ち上げ花火、大きく上げるか小さく上げるか」

基調報告4 「「このゆびとまれ」からはじめる文化財の活用」

現地見学 福井洞窟ミュージアム、福井洞窟

##### ② 県文化課 市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修

(令和4年12月16日 新潟県埋蔵文化財センター)：参加者2名

講義 「土器使用痕の見かた・描きかた・考えかた」

講義 「縄文土器の使用痕・焼成痕」

実習 「土器使用痕の観察・図化の実習・ディスカッション」

県文化課 市町村等文化財専門職員実務研修

(令和5年2月21日・22日 新潟県庁)：参加者9名

1) 埋蔵文化財係報告

報告① 「新潟県における埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

報告② 「補助金事務、届出・通知等」

報告③ 「国・県指定文化財の取扱、留意点等」

報告④ 「文化財認定・譲与事務の留意点」

報告⑤ 「近年の県営ほ場整備事業について」

報告⑥ 「県指定文化財（考古資料）の選定方法について」

報告⑦ 「普及啓発事業等について」

2) 文化財係報告

報告⑧ 「新潟県における文化財保護行政の現状と課題」

報告⑨ 「文化財建造物の取扱いと留意点」

報告⑩ 「天然記念物等の取扱いと留意点」

3) 研修テーマ1：文化財行政におけるデジタル技術の活用

講演① 「普及・啓発事業におけるデジタル技術の活用」

講演② 「発掘調査におけるデジタル技術の活用」

4) 講演 「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」文化庁

5) 研修テーマ2：豪雨災害と文化財

8月豪雨による文化財被害と復旧の現状①

8月豪雨による文化財被害と復旧の現状②

6) 県指定記念物をめぐる課題と対応について（意見交換）

③ 令和4年度関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修協議会

(令和4年12月20日 群馬県)：オンライン参加者1名

講演 「火山灰考古学への招待」

事例発表1 「榛名山噴火と金井東遺跡群の調査」

事例発表2 「浅間山天明泥流による被災遺跡の調査」

事例発表3 「富士山宝永噴火による被災遺跡の調査」



## 2 安全衛生委員会

### (1) 委員会

調査現場及び作業場の安全点検、労務災害・交通災害の予防や安全衛生教育の企画立案などをテーマに、委員7名で構成する委員会を年間20回開催した。

### (2) 研修・講習

#### ① 救急法講習（令和4年7月29日）

全職員を対象に、救急法の講習を行った。

[内 容] 救急法「心肺蘇生法」

[講 師] 日本赤十字社新潟支部 指導員

#### ② 消防訓練（令和4年9月30日）

内勤職員を対象に、火災時の行動、非常口・消火設備の配置と使用方法の確認について、消防用設備保守点検委託会社社員の指導を得て、講習・実習・実施訓練を行った。

[内 容] 1 通報訓練

2 避難・誘導訓練

3 非常持ち出し訓練

4 消火器・消火栓使用訓練

[講 師] 新潟ニッタン（株）社員

### (3) 巡視・点検

事務作業環境の安全・衛生管理を目的として、委員が発掘調査現場及び埋蔵文化財センター内を巡視・点検し、担当職員や委託業者に対して改善事項等の指示・指導を行った。

#### ① 発掘調査現場（8か所）

令和4年6月9日 金屋遺跡Ⅵ、六日町藤塚遺跡Ⅴ・Ⅵ

6月14日 上野遺跡Ⅵ、石船戸東遺跡Ⅳ・蕪木遺跡Ⅲ

7月11日 丘江遺跡Ⅺ、下割遺跡Ⅹ

#### ② 埋蔵文化財センター

令和4年11月25日 職場内巡視

### (4) その他

交通規則の遵守・事故防止について、職員会議などの場で適宜注意を喚起した他、交通事故防止のDVD鑑賞を実施するなど、交通安全（安全運転）の徹底を図った。

## V 市町村及び関係機関等への協力

14団体の依頼で、埋蔵文化財の調査研究（専門研修会講師、調査指導・助言、委員会委員等）、普及（報告、講演等）に関連した事業に延べ19回の協力を行った。

	協力内容	協力先	期日	担当者
1	曾我墓所遺跡出土土器整理指導	新潟市文化財センター	令和4年4月27日	春日 真実
2	神田原山遺跡出土土器整理指導	上越市教育委員会	令和4年6月14日	春日 真実
3	第34回新潟県考古学会大会報告「南魚沼市金屋遺跡の調査」	新潟県考古学会	令和4年6月19日	飯坂 盛泰
4	第3回郷土資料館講座講師「考古資料から見る江南区の歴史」	新潟市江南区郷土資料館	令和4年6月26日	荒川 隆史 春日 真実
5	遺跡発掘調査作業員講習講師	(公社) 燕市シルバー人材センター	令和4年7月12日	荒川 隆史
6	ドイツ・テュービンゲン大学日本学研究センターインターンシップ	ドイツ・テュービンゲン大学日本学研究センター	令和4年8月3日 (雨天中止)	荒川 隆史
7	科研費・基盤研究C「浅間山南麓の火山災害考古学序論」研究協力	明治大学黒耀石研究センター 堤 隆	令和4年8月20日 ・21日	加藤 学
8	『新潟県考古学会連絡紙』第133号「柏崎市丘江遺跡出土金箔が押された木製塔婆」原稿執筆	新潟県考古学会	令和4年9月1日 刊行	土橋由理子
9	科研費・基盤研究S「酸素同位体比年輪年代法の高精度化による日本列島の気候・生産・人口変動史の定量化」佐渡市蔵王遺跡出土木製品の調査	福島大学共生システム理工学類 教授 木村勝彦	令和4年9月1日 ・2日	荒川 隆史
10	民間調査組織導入先進事例調査への協力	長野県埋蔵文化財センター	令和4年9月9日	五十嵐大介 荒川 隆史
11	上越歴史講座講師「古代のお話」	上越市教育委員会	令和4年9月10日	春日 真実
12	「発掘！諏訪区の遺跡－下割遺跡発掘調査から分かること－」講師	上越市立中央公民館	令和4年10月23日	加藤 学
13	高田河川国道事務所道路事業見学会「下割遺跡」	高田河川国道事務所	令和4年10月27日	加藤 学
14	村上市議会高速交通等対策特別委員会閉会中事務調査「上野遺跡」	村上市議会議長 三田敏秋	令和4年11月15日	荒川 隆史
15	『木簡研究』44号「2021年度出土の木簡下割遺跡(Ⅸ)」原稿執筆	木簡学会	令和4年11月 刊行	佐藤 友子
16	『新潟県考古学会連絡紙』第135号「上越市下割遺跡における飛鳥時代の調査」原稿執筆	新潟県考古学会	令和4年12月15日 刊行	加藤 学
17	鷲内遺跡出土遺物整理指導	南相馬市教育委員会	令和5年1月23日 ・24日	加藤 学
18	科研費・基盤研究A「高精度年代体系による東アジア新石器文化過程－地域文化の成立と相互関係－」青田遺跡出土木柱の年代測定研究	福島大学共生システム理工学類 教授 木村勝彦	令和5年3月1日 ・2日	荒川 隆史
19	『新潟県考古学会連絡紙』「2022年の発掘調査動向」原稿執筆	新潟県考古学会	令和5年4月 刊行	加藤 学

本書は研究目的での全文複写を許可します

---

**公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報**  
令和4年度

印刷 2023（令和5）年8月28日

発行 2023（令和5）年8月31日

編集発行 公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93番地1  
TEL 0250-25-3981

印刷・公開用データ編集  
株式会社 ハイングラフ  
TEL 025-233-0321

---